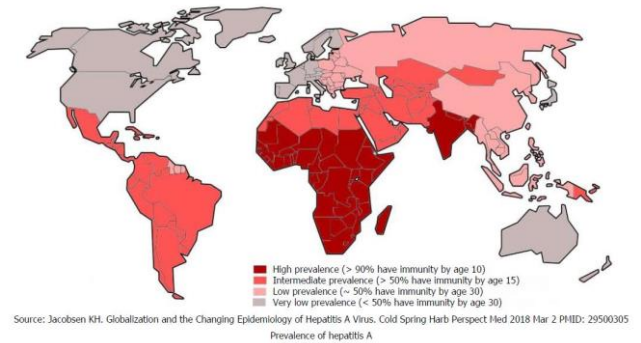


A型肝炎の予防について

作成日 2019年6月3日

1. A型肝炎のリスク等について

A型肝炎は、A型肝炎ウイルスによる感染症で、汚染された飲食物を十分に加熱せずに摂取すること等により感染します。果物、サラダ、飲水等、加熱されていない飲食物を口にしないことは困難であるため、流行地域での潜在的な感染リスクを排除できない感染症です。世界では毎年140万人が罹患していると推計され、日本国内でも年間200～800人の患者が報告されています（約1/4が海外で感染と推定）。特に、衛生水準の高くない国で蔓延しており、高流行地域は、東南アジア、南アジア、中南米、アフリカ等です。



A型肝炎を発症すると発熱や倦怠感、黄疸等の症状を認め、A型肝炎に対する特別な治療はないため対症療法で経過観察となり、通常は1～2か月の経過で自然軽快しますが、高齢者や肝疾患がある方等（全体の1%未満）では、劇症肝炎等の命にかかわる病態に移行することもあります。また、食物に関わる職業では、感染症法上、就業が制限されます。

2. A型肝炎の予防

まず、危険な飲食物の摂取を避けることが大切です。具体的には、事前の十分な手洗いに加えて、飲料水は開封されていないペットボトル飲料又は煮沸した水の飲用、食べ物が適切に調理されていることを確認すること等です。また、ワクチンが実用化されており、予防接種による効果はほぼ100%と高く、定められた接種を完遂することで、長期に渡り効果が持続します。米国等の一部の国では定期接種として予防が推奨されている他、流行地への渡航者、感染や重症化のリスクが高い方等での接種が推奨されます。当院では国産ワクチン及び接種回数の少ない海外からの輸入ワクチンの2種類のワクチンを取り扱っています。

3. A型肝炎ワクチンの種類（費用については別紙のワクチン価格をご参照下さい）

裏面参照

4. A型肝炎の予防接種が推奨される対象者

感染及び重症化のハイリスク者：具体的には、流行地への渡航者（特に長期滞在、郊外への滞在、友人・親族の訪問）、罹患歴のない高齢者、慢性肝炎患者、飲食業の従事者、男性の同性愛者等

5. 副作用が生じた場合の対応

予防接種後の副作用は接種部位の腫れ等の頻度が高く、数日の経過で自然に軽快することがほとんどですが、日常生活に支障のある副作用に対しては、医療機関を受診いただき、評価の上、対症療法を行うことがあります。また、当院で取り扱っているワクチンは、国内外で多数の接種実績があり、重篤な副作用が起こることは極めて稀ですが、国内未承認ワクチンについては、重篤な副反応が起こった場合に適用できる公的な補償制度がありません。代替として民間企業による自社補償制度の適応となることがあります。

質問・連絡先

不明点がありましたら、担当した医師までご連絡下さい

〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
国立国際医療研究センター病院 トラベルクリニック
電話：03-3202-7181 03-3202-1012（直通）

3. A 型肝炎ワクチンの種類

	HAVRIX® 1440, 720	エイムゲン®
製造会社	GlaxoSmithKline	KM バイオロジクス
承認取得	WHO-PQ 2013/7/19	日本 1994 年 10 月 5 日
投与経路	筋肉内注射	筋肉内または皮下注射
投与量	1.0mL (1440), 0.5mL (720)	0.5mL
内容量	A 型肝炎ウイルス抗原 1440/720 EL.U. 滅菌水 1.0/0.5 mL 水酸化アルミニウム 0.5 mg/mL ネオマイシン 40 ng/mL 未満 残留ホルマリン 0.1 mg/mL 未満	A 型肝炎ウイルス抗原 0.5mcg 注射用水 0.5 mL 乳糖水和物 25.0mg D-ソルビトール 5.0mg L-グルタミン酸ナトリウム 0.5mg
回数	1 回量 1.0/0.5mL を 2 回	1 回量 0.5mL を 3 回
効力	健康成人 400 名以上に 1 回接種し、1 か月後の抗体陽転率 96% (Product Information)	10 歳以上の健康人 1168 名に 2 回接種後の抗体陽転率 100% (Product Information)
追加接種	不要	不要
禁忌	本剤の成分による重度アレルギー 中等度以上の急性疾患	本剤の成分による重度アレルギー 中等度以上の急性疾患
妊婦・授乳婦	FDA category C : 妊娠・授乳中の影響に関する研究は行われていない。 胎児・乳児へのリスク増加は示されていない。 A 型肝炎のリスクが大きい場合に考慮される。	妊娠中の接種に関する安全性は確立していない。 妊娠または妊娠している可能性のある婦人には接種しないことを原則とする。 有益性が有用性を上回る場合に考慮される。
効果	A 型肝炎の感染予防	A 型肝炎の感染予防
副作用 発生頻度	10%未満 頭痛、局所の腫脹・疼痛 1%未満 倦怠感、嘔気、局所の硬結・発赤 0.1%未満 アレルギー反応等	10%未満 倦怠感、局所の発赤・疼痛 1%未満 発熱 0.1%未満 アレルギー反応等